「エコ・ステーション（環境の駅）」

－環境に優しいまちづくり－

1．はじめに

近年、私たちの日常生活や企業等の生産活動において、環境への配慮は大変重要なこととなってきています。特に、廃棄物に関しては、発生の抑制、再利用、再資源化を行い、資源の有効利用が求められています。

私たちの身近な活動として、分別回収やリサイクル運動を行っていますが、もっと良いゴミの削減や再利用の方法があるのではないかと考えることがあります。そのためには、環境やゴミ処理等に関する情報を得たり、勉強する機会を持つことが必要になってくると考えられます。

私たちの生活サイクルの一部として、環境に関するキーステーションになるようなものがあって、そこで家族と余暇を過ごす事が出来れば、更にたくさんの人達が環境保全活動に参加でき、もっと環境に優しい社会の仕組みづくりが可能になるではないかと思い提案します。

2．提案内容

ゴミ問題への理解と関心を深めるために、各まちに「エコ・ステーション」を設立することを提案します。その中に、ゴミ問題や、リサイクル等について、大人から子供まで気軽に分かりやすく学べる場所を設けます。また、実際にリサイクルを体験出来るコーナーを設置します。親子での体験コーナーや、お年寄り向けのコーナー等、幅広いコーナーを設ける事により、資源の大切さや有効活用を身近に感じてもらうだけでなく、親子の関わりや、近所の人達との関わりも深くなり、お年寄りの方々の孤独を防ぐ事が出来る施設にもなると思われます。

3．エコ・ステーション

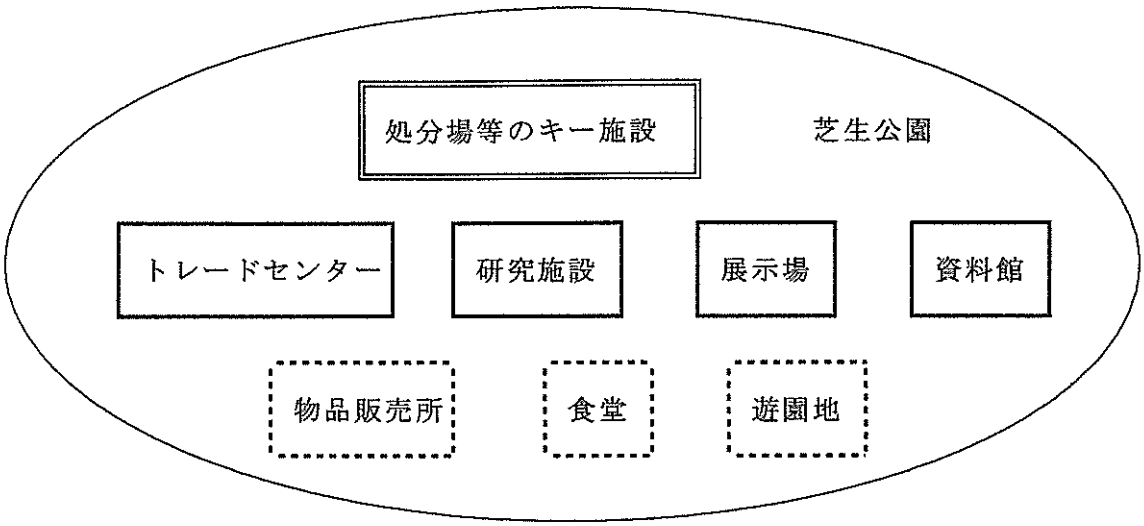
3.1 求められる機能

この「エコ・ステーション」が持つ機能としては、環境教育、ゴミ処理に関する教育及び情報交換、不要物の交換及び販売、ゴミ処理施設、研究開発機関など、身近な環境関連の機能を想定しています。

3.2 施設のイメージ

既存の処分場やリサイクルセンターがキー施設となり、その周りにトレードセンター、研究施設、娯楽施設、展示場などを配し、余暇を家族で楽しみながら過ごし、自然に環境に関する知識の吸収や、家庭ゴミの有効活用及び処分が出来るようなイメージです。

現在北九州ひびき灘に設置されているエコタウンのイメージではなく、もっと私たちの生活に密着した身近な施設が出来ればと思っています。



「エコ・ステーション」のイメージ

3.3 利用のイメージ

利用方法の一つのイメージを以下に示します。

・不要になってリサイクルできそうな物や、分別しておいたゴミを車に積んで家族で施設を訪れる。

・子供は遊園地で、環境に関するゲームやモニュメントで遊び、お父さんは分別しておいたゴミを種類毎に処理施設に運搬する。お母さんは、家で不要になった物をリサイクルセンターに引き取ってもらい、一部は市場で自ら販売する。

・お父さんは、以前から環境ホルモンに関する詳しいことが知りたかったので、付属の資料館で資料を集めるとともに、指導員から説明を聞いている。

・昼食は、隣接の芝生公園でお弁当を広げ、ゆったりとした時間を過ごす。

・自然食品や無農薬野菜などの販売所で夕食材料を購入する。

・焼却場の余熱を利用した温泉で汗を流し、帰路に就く。　等々

4．おわりに

運営形態は、市町村が主体であったり、民間企業が主体であったり、或いは合同であったりと、いろいろな形態が可能だと考えています。住民主体で環境に関する取り組みを行っていくことが、本当に意味での「環境に優しいまちづくり」につながっていくものと考えています。

今後も、ゴミ処理施設等の建設計画、自然環境保全などが社会問題として取り上げられることが多々あると思われますが、住民参加型の活動を通して、自然や施設に対する住民のオーナーシップの高揚を図り、後世に豊かな環境を残していくことを願っております。

以上